



しんぼうさいどう
心房細動

稲城市保健センター
☎378-3421

若い人でも心臓の弁の異常やホルモンバランスの異常などにより、心房細動となることもありますが、一般的には高齢になるほど発症しやすく、心臓の老化によって出てくるのではないかという説もあります。

同じ心房細動でも脳梗塞になりやすい人となりにくい人がいます。それは、心不全、糖尿病、高血圧、年齢、脳卒中の既往の有無によって決まります。何のリスクもない人や出血の危険の高い人を除けば、原則として抗凝固療法（血栓ができていくくなるようコントロールする治療法）が勧められます。これによって心房細動が原因の脳梗塞を起すリスクをかなり少なくすることができま

す。心房細動という不整脈の話をしたいと思います。

本来、心臓の拍動は洞結節という部位からの電気的信号によって規則正しく動かされています。しかし心房細動では、心房がけいれんしたように細かく震えることで脈がバラバラになり、全く不規則に心臓が拍動するようにになります。この時、心臓の能力は正常な脈の時に比べて7〜8割に低下してしまふため、労作時に息切れがしたり、動悸がしたりという症状が出やすくなります。

心房細動は症状が一過性で、また正常脈に戻ることもありま

すし、それをくり返すこともありま

す。また、持続的に心房細動になったままの場合もありま

す。どちらも不整脈自体が大きな問題となることはあまりないのですが、一番怖いのは心房細動が原因で心臓内に血栓ができ、毎年5%程度の人が脳梗塞を起こしてしまふことです。それが生命を維持できるかどうかを大きく左右するため、医者の間では「心房細動を見たら脳梗塞を心配しろ」というのが基本

稲城市医師会 清水 雅英